一般口演 | 1-14 成人先天性心疾患

一般口演-6
成人先天性心疾患

座長:
稲井 慶 (東京女子医科大学心臓病センター)
康井 制洋 (神奈川県立こども医療センター)
Thu. Jul 16, 2015 10:00 AM - 10:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)
I-O-26～I-O-30
所属正式名称：稲井慶(東京女子医科大学心臓病センター　循環器小児科)、康井制洋(神奈川県立こども医療センター)

[I-O-29]成人先天性心疾患における心原性脳梗塞

○武智 史恵[1], 森島 宏子[1], 立野 滋[1], 川副 泰隆[1], 岡嶋 良知[1], 丹羽 公一郎[1,2] (1.千葉県循環器病センター　小児科, 2.聖路加国際病院　心血管センター)

Keywords:Cardioembolic Stroke, Adult Congenital Heart Disease, prevalence

【背景】成人先天性心疾患(Adult Congenital Heart Disease;ACHD)の管理において,心原性脳梗塞(Cardioembolic Stroke;CE)の合併は予後に大きく影響する.しかし,ACHD患者の CEに関して,まとまった報告は少ない.【目的】当院の ACHD患者における CEの現状を調査する.【対象及び方法】対象は1998年1月～2014年12月迄に当院を受診した18歳以上の CHDを有する901名の内,CEの既往を持つ患者.対象を,A群;cyanosis(-)∧短絡(-),B群;cyanosis(-)∧短絡(+),C群;cyanosis(+),の3群に分け,発症時年齢,心房細動(AF)/心房粗動(AFL)及び抗凝固療法の有無,脳梗塞 risk factorの有無,機能予後につき診療録を用いて後方視的に検討.【結果】対象は17例(全体の1.9%)(男10例女7例),A群6例(cyanosis(-)∧短絡(-)例の0.8%)(男3例女3例),B群7例(cyanosis(-)∧短絡(+)例の5.1%)(男6例女1例),C群4例(cyanosis(+)例の10.8%)(男1例女3例).CE発症時年齢中央値は A群59(24-70)歳,B群46(27-67)歳,C群25(21-34)歳であり,有意に C群で低かった.AF/AFLを認めた割合は A群5例(83%),B群1例(14%),C群0例(0%)と A群で高い傾向を認めたが,統計学的有意差は認めなかった.AF/AFLを認めた A群の1例では CE発症前より抗凝固療法中だったが,発症時 PT-INR 1.5であった.AF/AFLを認めた A群の3例と一過性脳虚血発作を認めた C群の1例は抗血小板薬を内服していた.CE発症後全例抗凝固療法を開始し,以降再発なし.脳梗塞 risk factorとして高血圧,脂質代謝異常,耐糖能異常のいずれかを A群2例(33%),B群2例(29%),C群0例(0%)で認めた.modified ranking scaleによる退院時機能良好例は A群5例(83%),B群7例(100%),C群4例(100%),機能不良例や死亡例は認めなかった.【考察】 C群では,脳梗塞 risk factorを持たなくとも,若年で効率に CEを発症しており,cyanosisが残る ACHD患者では,注意深い診療が必要と考えられた.ACHD患者特有の risk factorを明らかにする為に,今後更なる検討を要する.

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery